

図書館だより

4・5月号

令和6年4月17日
港区立青山中学校
校長 中田 和直
学校司書 三島 裕美
図書館支援員 武田 優子
塩野谷 恭輔

新1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そして、新2年生・新3年生のみなさんも、ご進級おめでとうございます。

新たなスタートを切る、希望にあふれたこの時期だからこそ読んでほしい本がたくさんあります。ぜひ興味のある人は図書館に足を運んでください。

図書館利用案内

貸出・返却

1人3冊まで、2週間借りられます。

カウンターに借りたい本を出し、「〇年〇組〇番〇〇(名前)です。貸し出しをお願いします。」と言ってください。返却時は「返却をお願いします。」と言って本をカウンターに出し、返却処理後、自分で棚に本を戻してください。

開館時間

昼休み・放課後 16:45 まで

予約・リクエスト

受け付けます

～開館時間～

火・水・金…11:15～16:45

月・木…10:15～16:45

名作まちがいさがし

「羅生門」

芥川龍之介



男が一夜を明かそうと羅生門の上へ登ると、暗闇の中、かすかに灯が見えます。恐る恐るのぞくと、死骸がいくつかすてられていて、火をともした木片を持った老婆が、女の死骸をのぞき込むように眺めていました。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

※「羅生門」は、青空文庫や岩波書店、新潮社、KADOKAWAなどの短編集に収録されています。

「鼻」、「芋粥」があります。

同じく今昔物語を題材にしている短編に「藪の中」、

教科書にも載っている、芥川龍之介(一八九二～一九二七)の有名な短編です。平安時代後期の説話集『今昔物語集』の「羅生門の上層に登りて死人を見る盗人の語」を題材にしています。主人公の男が、羅生門の死体の髪の毛を抜く老婆に出会うなど、話の骨子は小説も説話も同じです。しかし、小説では、芥川の筆致によって、善にも悪にも徹しきれない不安定な人間の姿がより鮮やかに描かれています。

同じく今昔物語を題材にしている短編に「藪の中」、

持ちが変わり……。作品の概要・解説
夕暮れ時、身分の低い男が平安京の正門、羅生門で雨宿りをしていました。都は衰退し、立派な門も荒れ果てていました。行く当てのない男が、一夜を明かそうと門の上に登ると、人の気配がします。死骸がいくつか捨てられている中に、みすばらしい老婆がいました。老婆は女の死骸からかつらを作るために、髪の毛を抜いていました。男は正義感にかられて憤りますが、老婆に「悪行でも、生きるためには仕方ないこと」と言われて、気持ちが変わり……。作品の概要・解説

～今年度の図書館スタッフの紹介～

★月曜日・木曜日…三島裕美

昨年度に引き続き青中の司書を担当させていただきます。毎回、皆さんに会えるのを楽しみにしています。今年もたくさん来てください。

★火曜日・木曜日…武田優子

入学、進級おめでとうございます。図書館は3階にあります。楽しい企画で皆さんにもっと本に興味を持ってもらえるよう頑張ります！

★月曜日・水曜日・金曜日…塩野谷恭輔

今年も青中で支援員を担当することになりました。いつでも遊びに来てください。図書館で待ってます！



4/12は宇宙の日



4月12日は「世界宇宙飛行の日」です。これは、1961年4月12日にソヴィエト連邦(当時)のユーリイ・ガガーリンが世界で初めて有人宇宙飛行に成功したという出来事にもとづいています。かつての宇宙開発は冷戦体制を背景にしたものだったため、1991年のソ連崩壊後に各国の宇宙開発は下火に向かいました。ですが近年では、イーロン・マスクのような民間の企業家を中心的な担い手として、宇宙開発ブームが再燃しているようです。

ちなみに日本では、毛利衛さんがスペースシャトルで宇宙に飛び立った9月12日が、「宇宙の日」として別に定められています。



4・5月のおすすめの本



『成瀬は天下を取りに行く』 913/ミ

宮島美奈 / 著 (新潮社)

中学2年の成瀬あかりは全力で自分の信じた道を突き進む。閉店予定のデパートを応援したり、M-1に挑戦したり。あかりが次に何をするのか目が離せない。そして、最後は誰しも彼女のファンになってしまいます。今年度本屋大賞受賞作。



『スクラップ・アンド・ビルド』 913/ハ

羽田圭介 / 作 (文藝春秋)

現代東京の「市民社会」の一角が舞台。アラサーにして会社をリストラにあった健斗は、すっかり衰弱し「早う死にたか」とぼやく80代の祖父を介護する日々の中で、試行錯誤しつつ不安を抱えながらも生きていくことを学ぶ。第153回芥川賞受賞作。



『面白くて眠れなくなる宇宙』 440/タ

高水裕一 / 著 (PHP研究所)

青山中学校では月替わりの特別展示をしています。4月のテーマは「宇宙」です。この本の著者高水裕一さんは、星座ファンではなく手塚治虫が描いた相対性理論の漫画をきっかけに宇宙空間の不思議に興味を持ったそうです。著者が星座ファンでなかったからこそ面白くて眠れなくなる宇宙の本にはまってください。